

国連生物多様性の 10 年日本委員会（UNDB-J）

平成 27 年度事業実施計画（案）

平成 27 年は「国連生物多様性の 10 年」の中間年であることから、これまでの取組について中間評価を行うとともに、2020 年に向けて、各セクター・委員間の連携、広報の強化を図ることを重点に、生物多様性の主流化に向けた取組を一層推進。

<重点事業>

・ 中間評価とロードマップ作成

平成 26 年度に行った各委員へのヒアリング、2 月 20 日に開催したフォーラムを踏まえて中間評価をとりまとめるとともに、主流化の取組をさらに加速するためにロードマップを作成し、11 月に滋賀で開催する生物多様性全国ミーティングにおいて報告。

・ 「MY 行動宣言」の積極的な呼びかけ

環境省や自治体が開催するイベントやグリーンウェイブでの配布、民間企業への働きかけ、日本動物園水族館協会との連携、ウェブサイトによる宣言等により、2020 年までに 100 万人の宣言を目指す。

・ 「生物多様性の本箱」100 館プロジェクト

子ども向け推薦図書「生物多様性の本箱」について、平成 27 年度中に 100 館達成を目指して、さらなる普及啓発。（平成 27 年 5 月 27 日現在、全国 69 の図書館・施設等において展示・企画展等が実施）

・ 生物多様性.com の開設

日常の中で生物多様性の恵みを感じる機会を提供するためのウェブサイトを設置。個人に向け、生物多様性に関する情報や、委員の取組商品（プロダクツ）・サービス・取り組みを紹介。委員からの積極的な情報提供を期待。

・ 国連生物多様性の 10 年中間年記念フォーラム

中間評価を踏まえて、2020 年に向けた、各セクターの取組のさらなる推進を図るため、各セクターが一堂に会し、事例紹介を行うフォーラムを開催。

・ 平成 27 年開催生物多様性関連イベント・行事 一斉報道発表

5/22(金)「国際生物多様性の日」周辺イベント・行事等を取りまとめて報道発表。グリーンウェイブについても登録状況を報道発表。

新宿御苑みどりフェスタ（4 月）、みどりの感謝祭（5 月）、エコライフフェア（6 月）において、MY 行動宣言の配布等を行い、生物多様性の主流化を呼びかけ。認定連携事業の団体等の協力を得た。

＜個別事業＞

★	新規事業・取組
☆	Iki・Tomo 推進事業
【 】	〃 推進事務局

1. 生物多様性に関する行動の呼びかけ

☆（１）MY 行動宣言 5つのアクション【CEPA ジャパン・IUCN-J】

国民一人ひとりが生物多様性との関わりを自分の生活の中でとらえることができるよう、5つのアクションの中から自らの行動を選択して宣言する「MY 行動宣言シート」を、主流化の取組みの初動となるツールとして活用を広く呼びかける

★100 万人の MY 行動宣言

- ・日本動物園水族館協会の協力による宣言シートの配布
- ・ウェブサイトでの MY 行動宣言
- ・シートの裏面に企業等の生物多様性に関する取組を掲載するなど、企業等にタイアップを呼びかけ **UNDB-J タイアップ事業**

☆（２）生物多様性アクション大賞による表彰【CEPA ジャパン】

国民一人ひとりが5つのアクションを理解し実践するため、全国各地から事例を収集してウェブサイトに掲載することと、各地の活動を応援することを目的に、企業等に寄付協賛を呼びかけ、MY 行動宣言の5つのアクションに即した活動を募集し表彰する「生物多様性アクション大賞 2015」を昨年度に引き続き、UNDB-J 主催事業として実施。応募数 300（H26 実績：124）を目指して、エコライフフェア等を活用して広報

★（３）平成 27 年開催生物多様性関連イベント・行事 一斉報道発表

各セクター・委員において、5/22(金)「国際生物多様性の日」周辺および年内に開催するイベント・行事について広く呼びかけ、取りまとめの上、報道発表

2. セクター間の情報交換

★（１）国際生物多様性の 10 年中間年記念フォーラム

生物多様性の保全に関わる全国の様々なセクターが一堂に会して、国連生物多様性の 10 年の中間年という節目から 2020 年に向けた、これまでの取組の中間評価を踏まえての各セクターの取組のさらなる推進を図るために実施（2 月、東京都内）。認定連携事業の事例紹介とテーマ別のワークショップを開催。過去の認定された事業への認定証の授与式をあわせて実施。

（２）生物多様性全国ミーティング

- ・「第 5 回生物多様性全国ミーティング」として開催（11 月、滋賀県）
- ・「生物多様性自治体ネットワーク定期総会」、「生物多様性エクスカーション」等開催自治体の滋賀県と連携

★中間評価について報告

3. 主流化に向けた活動プログラム

☆（１）「生物多様性の本箱」の普及啓発

【環境パートナーシップ会議・日本自然保護協会】

★・「生物多様性の本箱」100館プロジェクト

UNDB-Jが推薦する子供向け図書「生物多様性の本箱」については、平成27年度中の100館達成を目指して、さらなる普及啓発を図るための広報、様々なイベントへの出展等を実施（平成27年5月27日現在、全国69の図書館・施設等において展示・企画展等が実施）

・本箱寄贈プロジェクト

「生物多様性の本箱」を東北の小・中学校、図書館、普及啓発施設等に寄贈し、生物多様性に支えられる東北復興を支援するため、企業等に寄付協賛を呼びかけ【日本自然保護協会等】 **寄付協賛募集事業**

☆（２）連携事業の認定【IUCN-J】

- ・UNDB-Jが推奨する連携事業を9月（第7弾）と3月（第8弾）に認定
- ・認定団体については、全国ミーティングにおいて表彰・取組を紹介
- ・ウェブサイトでの紹介、リーフレットを活用した各セクターへの働きかけ

（３）グリーンウェイブ【国土緑化推進機構】 **寄付協賛募集事業**

- ・グリーンウェイブを強化するため、企業等にも協力を呼びかけつつ、「生物多様性と子どもの森」キャンペーン実行委員会等の関係団体と連携して事業を実施
- ・参加団体に参加証を発行するほか、全国一斉キャンペーン用のポスターを作成し、リーフレットとともに各セクターに働きかけ

★・「みどりの感謝祭」において、林野庁、国土緑化推進機構の協力を得てグリーンウェイブ呼びかけを実施

★（４）生物多様性イベント支援ツール

生物多様性地域セミナーを休止する代替策として、生物多様性自治体ネットワーク構成自治体向けに「地球いきもの応援団」の紹介や生物多様性キャラクター応援団「タヨちゃんサトくん」の着ぐるみ、「生物多様性の本箱」等の貸出、各種広報ツールの配布を実施。中間年に併せて、各自治体における生物多様性関連主催イベントについて開催を呼びかけ

☆（５）生物多様性出前講座【日本自然保護協会・IUCN-J】

- ・生物多様性の普及啓発を目的に、講師を派遣する座学タイプの出前講座を全国3か所で実施予定

4. 情報発信

（１）生物多様性マガジン「Iki-Tomo」

一般国民を対象とした普及啓発用小冊子として、自然の恵みを感じる生物多様性マガジン「Iki・Tomo」を年3回発行

- ・企業等の生物多様性に関する取組の掲載や、既存の小冊子等とのコラボレーショ

ンなど、企業等にタイアップや増刷して各企業の店舗等への配置協力について呼びかけ **UNDB-J タイアップ事業**

☆ (2) 生物多様性.com【日本自然保護協会】

日常の中で生物多様性の恵みを感じる機会を提供するためのウェブサイトの活用。個人に向け、生物多様性に関する情報や、委員団体、連携事業の認定団体やグリーンウェイブ活動団体等による生物多様性の保全及び持続可能な利用に向けたさまざまな商品（プロダクツ）・サービス・取り組みを紹介。（H27.5.22に一般公開）

(3) facebook「Iki-Tomo パートナース」

- ・ Iki-Tomo パートナースへの新たな参画を関係者へ呼びかけ
- ・ 認定連携事業や子供向け推薦図書をはじめとする UNDB-J の様々な取組のほか、UNDB-J 構成団体の取組、生物多様性.com の更新情報等を広く発信

★・ UNDB-J 委員への中間評価ヒアリング結果、「地球いきもの応援団」へのインタビュー等の掲載

(4) UNDB-J ウェブサイト

- ・ UNDB-J の活動状況等を発信

(5) 広報ツール

- ・ リーフレットやブックマーク等を活用して各セクターに働きかけ

(6) 特別事業

- ★・ みどりフェスタ 2015、エコライフフェア 2015 出展企画
各種イベントにおいて UNDB-J の取組を発信する展示について企画・作成
委員および関連団体からの出展等の協力を依頼。
- ・ エコプロダクツ 2015 出展企画
上記エコライフフェアにて作成した展示について運用

5. 主流化推進チームによる広報・主流化

(1) 地球いきもの応援団、生物多様性リーダー

- ・ 地球いきもの応援団への新たな加入を呼びかけ(現在、26 名)
- ・ 地球いきもの応援団の中から、国民一人ひとりが生物多様性の大切さを理解して行動に移せるように先導する「生物多様性リーダー」を、全国ミーティング等の機会を活用して任命
- ・ 生物多様性マガジン「Iki-Tomo」において、地球いきもの応援団のメンバーから生物多様性に関する取組やメッセージを紹介

(2) 生物多様性キャラクター応援団

- ・ キャラクター応援団への新たな入団を呼びかけ
- ・ セミナー等の機会を活用し、UNDB-J キャラクター「タヨちゃんサトくん」と開催地のキャラクターが今後協力して普及啓発に取り組む「生物多様性キャラクター応援団共同宣言式」を実施

- ★100 体を超えるキャラクターの活用策を検討（緑の goo やグリーンウェイブとの連携）

6. 委員会等の運営

- ・委員会（6 月）、幹事会（2 月）、運営部会（7 月、9 月、2 月）を開催
- ・寄付金の活用については UNDB-J 支援事業財務委員会（6 月、2 月）と連携
- ★国連生物多様性の 10 年の中間年に際し、UNDB-J の活動の中間評価を実施

【参考】

（1）UNDB-J 推進事業（愛称：Iki・Tomo 推進事業）について

- ・ UNDB-J 活動を拡大するため、UNDB-J 構成団体による事業との連携が効果的な事業や、UNDB-J 構成団体からの提案事業等については、環境省（UNDB-J 全体の事務局）と調整のうえ、UNDB-J 推進事業（愛称：Iki・Tomo 推進事業）に位置づけ、当該団体内に事務局（愛称：Iki・Tomo 推進事務局）を設置
- ・ 事業の実施にあたっては、UNDB-J 全体の事務局である環境省と連携しつつ実施

（2）寄付協賛募集事業について

- ・ 事業規模の拡大等を図るため、事業の目的や趣旨に応じて、企業等に寄付協賛を呼びかけつつ事業を実施
- ・ 例えば、「生物多様性の本箱」の各作品を東北に寄贈するプロジェクトについては、各出版社への協賛（本の提供）の呼びかけや、企業等への寄付（寄贈式の実施費用の負担等）の呼びかけについても実施を検討

（3）UNDB-J タイアップ事業について

- ・ 企業等と UNDB-J がタイアップし、生物多様性の普及啓発ツール・アイテムを作成
- ・ 例えば、「Iki・Tomo」の発行については、企業等の生物多様性に関する取組を掲載する企画についても実施を検討（企業等は制作費等を負担、UNDB-J は生物多様性に関するコンテンツを提供するなど）

わたしたちと生きものたちのためにできる

MY行動宣言 5つのアクション **5つのこと**

「説明の例」は、あくまでも「こういった内容のことをお伝え下さい」という目安です。

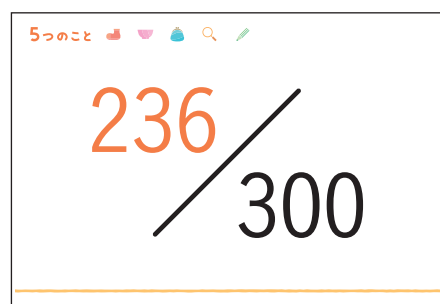
スライド

説明の例

補足

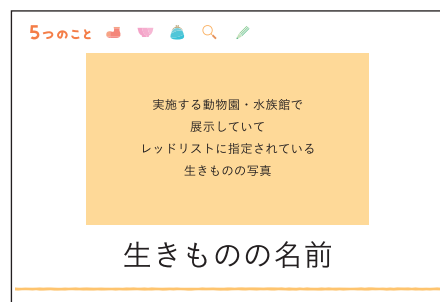


本日はツアー／イベントへのご参加、ありがとうございました。
最後に、やってみると私たちにも生きものたちにとっても良い、暮らしに役立つ5つのことを紹介しますので、少しだけお付き合い下さい。（パンフレットを配布）



この動物園／水族館に展示している生きものは〇〇〇種類いますが、そのうち〇〇〇種類が、絶滅の危機に瀕しています。

＜このスライドの使用は任意です＞
スライドは数字を入力出来る様になっているので、実施する動物園・水族館の種数に合わせて編集をお願い申し上げます。

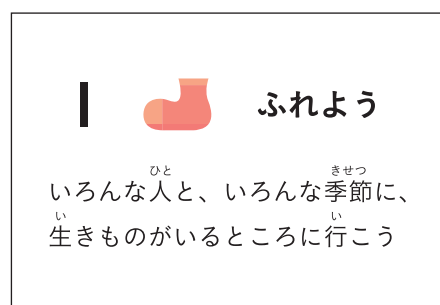


たとえば、(生きものの名前) は、(個体数減少の理由) といった理由で数が減っています。
これから紹介する「5つのこと」は、こんな生きものの状況を少しでも良くするために、わたしたちができることです。

＜このスライドの使用は任意です＞
実施する動物園・水族館で展示していて、レッドリストに指定されている生きものの写真等をご利用下さい。

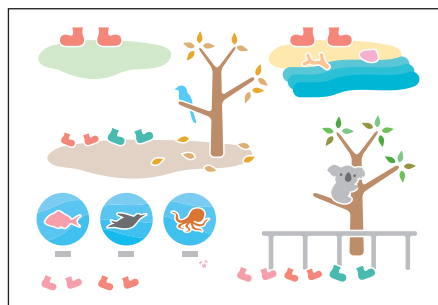


まず1つめは「ふれよう」です。



色んな人と、色んな季節に、生きものがいるところに行ってみて下さい。

スライド



説明の例

生きものは、色んなところにいます。近所の公園や、少しはなれた森や海、もちろん動物園や水族館にもいます。一緒に行く人が違ったり、行く季節が違ったり、見えるものも聞こえるものも変わってきます。そうして、まずはどんな生きものがどんな場所で、どんな暮らしをしているか、そっとのぞいてみましょう。

補足

動物園／水族館での、「季節による見えるものの違い」などを例示して頂くと興味深い内容になるかと存じます。

2 たべよう

2つめは、「たべよう」です。

2 たべよう

きせつ
季節のもの、
ちか
近くでとれたものをたべよう

季節のもの、近くで採れたものを食べましょう。
野菜やお魚には、「旬」という食べごろの時期があります。たとえば、枝豆は夏、大根は冬、鮭は秋です。



食品の中には、食べごろが違う時期に来るようにするためにエアコンを使って作ったり、遠い場所でとれたものを運ぶために車や船を使うものがあります。どれもエネルギーを使い、地球を暖めることにつながるので、暖かくなると困ってしまう生きものが暮らせなくなってしまう。

5つのこと

実施する動物園・水族館で
展示していて
温暖化の影響を受けている
生きものの写真

例えば、この動物園／水族館では、(温暖化の影響を受けている生きものの名前)が困ってしまいます。できるだけ、季節のものや近くで採れたものを食べましょう。

展示されている生きものの中から、温暖化の影響を受けている生きものの具体例を提示して頂ければと存じます。

スライド



説明の例

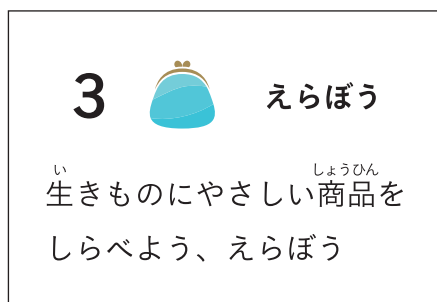
今日は〇月ですね。
この時期だと（実施日あたりが旬の食材の名前）が旬、食べごろです。

補足

実施日あたりが旬の食材を紹介して頂ければと存じます。

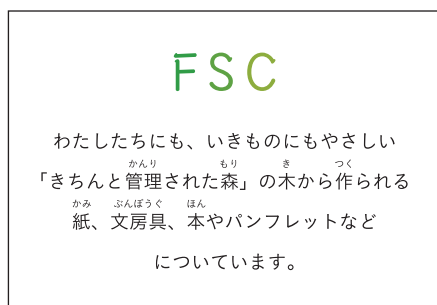


3つめは
「えらぼう」です。

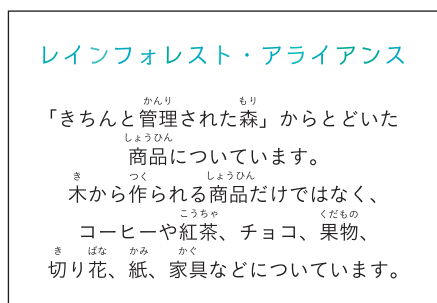


生きものにやさしい商品をしらべて、選んでみましょう。
例として、パンフレットに3つのマークをのせているので、ご覧になってください。

スライドにはマークの図柄を掲載しておりませんので、パンフレットをご覧になって頂く様、誘導をお願い致します。



まずは「FSC マーク」を紹介します。
このマークが付いた商品の材料になる木は、森を守るためのきちんとした管理をした森のものです。
このマークのついた紙、文房具、本などを買うことで、その森や、森を守るための管理を応援できます。



次は「レインフォレスト・アライアンス」です。このマークもきちんと管理された森で産まれた商品についています。紙だけではなく、コーヒーや紅茶、チョコ、果物、家具などにもついてます。

スライド

説明の例

補足

MSC

うみ い
海の生きものを
た
これからも食べていけるように、
うみ ほうほう
海にやさしい方法でとった
かい
サケ、タラ、たらこ、貝、エビ、カニなどの
しょうひん
商品についています。

そして、MSC マークを紹介します。
このマークのついた魚やエビ、貝は、
魚を採りすぎて数が減らない様に、
採る時期や方法を工夫して、これか
ら私たちが魚を食べられる様にし
ています。

実施する動物園・水族館で紹介したいマーク
or
売店で販売している環境配慮商品の写真

マーク名／商品名

(紹介したいマークや、動物園／水
族館の売店などで販売しているもの
があればご紹介下さい。)

<このスライドの使用は任意です>



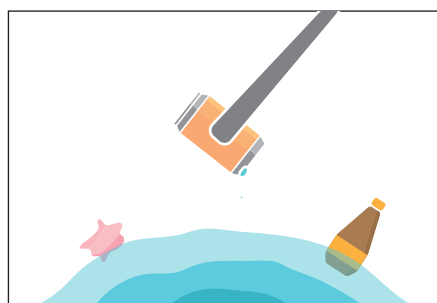
4 まもろう

4つめは
「まもろう」です。

4  まもろう

い かつどう
生きものをまもる活動を
さんか
しらべて、参加しよう

生きものをまもつ活動をしらべて、参加
してみましょう。

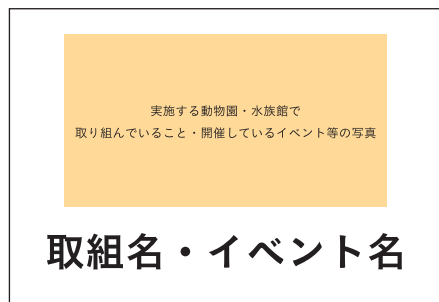


例えば、海の生きものを守るために、海
辺や川の掃除をしてみましょう。海にゴ
ミが落ちていると、ウミガメがビニール
袋を食べてしまったり、海鳥が釣り糸に
絡まったりしてしまいます。
他にも、各地域によって色々な活動があ
るので、調べてみましょう。

スライド

説明の例

補足

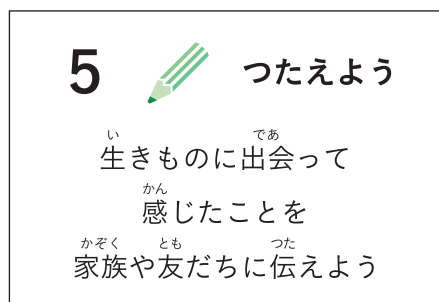


(動物園／水族館で取り組んでいる保護保全活動や、開催しているイベントがあれば、ご紹介下さい。)

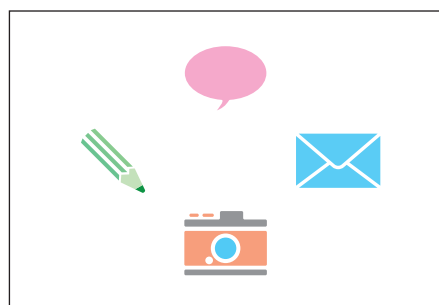
<このスライドの使用は任意です>



5つめ、最後は
「つたえよう」
です。



生きものに出会って感じたことを、家族や友達に伝えてみましょう。



ふれたり、たべたり、えらんだり、まもったり…これを全部自分だけでやるのはきっと大変なはず。あなたが生きものと出会って見たこと、聞いたこと、感じたことを、お話したり、絵や手紙を書いたり、写真を撮ってみたりして、家族や友達にも伝えて、みんなで取り組みましょう。



これで5つぜんぶの紹介が終わりました。やってみたいこと、やれそうなことはありましたか？是非やってみたいことに○を書いて下さい。書いた後は、この「5つのこと」に協力してくれる方の人数を数えているので、パンフレットのはじ、オレンジ色の部分を切り取って回収しますので、ご協力お願い致します。

裏表紙には、守る活動のヒントとなるサイト、国際会議の紹介、アプリ「Biodiversity is US」の紹介文も載せております。余力があればそちらにも○をして頂ける様、誘導をお願い致します。また、宣言数カウントは自主計算・申告でも構いませんので、必ずしも切り取って回収せずとも構いません。



**“国連生物多様性の10年”の普及啓発を目指す
「生物多様性アクション大賞 2015」の募集開始について**



平成26年6月5日（金）
環境省自然環境局自然環境計画課
生物多様性施策推進室
代 表：03-3581-3351
直 通：03-5521-8150
室 長：堀上 勝 （内：6660）
室長補佐：岡野 隆宏 （内：6481）
担 当：笠岡 真衣 （内：6664）

「国連生物多様性の10年日本委員会」（UNDB-J）は、「生物多様性アクション大賞 2015」の募集を6月5日（金）から開始します。UNDB-Jでは、暮らしの中で生物多様性を考える「5つのアクション」（たべよう、ふれよう、つたえよう、まもろう、えらぼう）を広く呼びかけています。「生物多様性アクション大賞」は、この5つのアクションに取り組む団体・個人を表彰し、生物多様性の主流化に貢献するもので、今年で3回目の開催です。

5つの部門で「優秀賞」を選定し、さらに「優秀賞」受賞者によるプレゼンテーションを経て「大賞」を決定します。多くの皆様の御応募をお待ちしています。

今回、広く応募を呼びかけるため、「生物多様性アクション大賞 2015 アンバサダー」を設け、生物多様性リーダーのさかなクンに就任していただきました。

1 「生物多様性アクション大賞 2015」募集概要

応募期間：2015年6月5日（金）～8月31日（月）

応募方法：「生物多様性アクション大賞」特設ページ(下記 URL)より応募ができます。

URL：<http://5actions.jp/award/>

内 容：生物多様性の保全や持続可能な利用に取り組む団体・個人から、下記部門ごとの取り組みを募集いたします。

《たべよう》 地元でとれたものを食べ、旬のものを味わいます。
《ふれよう》 自然の中へでかけ、動物園、水族館や植物園などを訪ね、自然や生きものにふれます。
《つたえよう》 自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで伝えます。
《まもろう》 生き物や自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に参加します。
《えらぼう》 エコラベルなどが付いた環境に優しい商品を選んで買います。

表 彰：5部門別の優秀賞を選定し、その中から大賞を決定し表彰します。そのほか、復興支援賞、グリーンウェイブ賞、セブン-イレブン記念財団賞など。詳しくはホームページをご覧ください。

*前年の受賞内容、審査委員からの評価ポイントについてはこちらからご覧頂けます。

URL：<http://5actions.jp/award/result.html>

対象となる活動：

1. 日本国内を拠点とする活動であること。
2. 計画に確実性があり、応募の段階で活動実績があること。
3. 継続性（概ね3年以上）が見込まれること。

（注）政治活動や宗教の布教を目的として活動する団体や、公序良俗に反する活動は除く。

実施体制：（2015年6月5日現在）

主催：国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

共催：一般財団法人セブン-イレブン記念財団

協賛（予定）：前田建設工業株式会社

特別協力（予定）：公益社団法人国土緑化推進機構

協力：富士フイルム株式会社

後援（予定）：朝日新聞社、毎日新聞社

事務局：一般社団法人 CEPA ジャパン

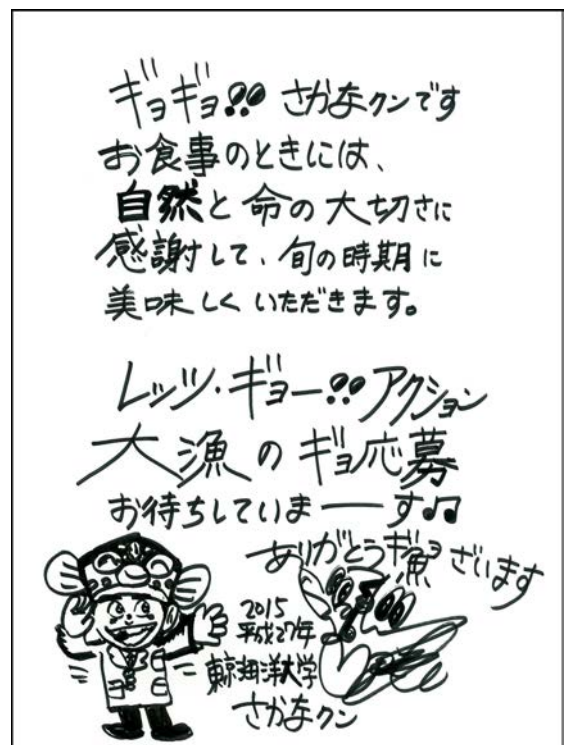
審査委員長：吉田正人（筑波大学教授）

審査委員：足立直樹（レスポンスアビリティ）、小野弘人（セブン-イレブン記念財団）、梶谷辰哉（国土緑化推進機構）、川廷昌弘（CEPA ジャパン）、坂田昌子（UNDB 市民ネット）、道家哲平（日本自然保護協会）、星野智子（環境パートナーシップ会議）、堀上勝（環境省）

2 「生物多様性アクション大賞 2015 アンバサダー」について

生物多様性アクション大賞への応募を広く呼びかけるため、「生物多様性アクション大賞 2015 アンバサダー」を設け、地球生きもの応援団で生物多様性リーダーのさかなクンに就任していただきました。

今回、さかなクンから右のとおりメッセージをいただきましたので、ご紹介します。



3 今後のスケジュール（予定）

募集期間 6月5日（金）～8月31日（月）

審査期間 9月～10月

優秀賞発表 11月

授賞式 12月（優秀賞受賞者によるプレゼンテーションにより大賞決定）

4 問い合わせ先

＊一般からのお問い合わせ：

生物多様性アクション大賞事務局 担当：木村

Tel：03-5256-6770 E-mail： award@cepa-japan.org

＊報道関係者からのお問い合わせ：

生物多様性アクション大賞 広報事務局（サンカルパ内） 担当：梶原

E-mail： press@cepa-japan.org

【参考】

○「国連生物多様性の10年日本委員会」（UNDB-J）

2011年から2020年までの10年間は、国連の定めた「国連生物多様性の10年」です。生物多様性条約第10回締約国会議（2010.10 愛知県名古屋市）で採択された、新たな世界目標である「愛知目標」の達成に貢献するため、国際社会のあらゆるセクターが連携して生物多様性の問題に取り組むこととされています。

これを受け、愛知目標の達成を目指し、国内のあらゆるセクターの参画と連携を促進し、生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取組を推進するため、「国連生物多様性の10年日本委員会」（UNDB-J）が2011年9月に設立されました。環境省はUNDB-Jの事務局を努めています。

（ウェブサイト） <http://undb.jp/>

（Facebook ページ） <https://www.facebook.com/UNDBJ>

○MY 行動宣言 5つのアクション

国民一人ひとりが生物多様性との関わりを自分の生活の中でとらえることができるよう、UNDB-J は、5つのアクション（たべよう、ふれよう、つたえよう、まもろう、えらぼう）の中から自らの行動を選択して宣言することを広く呼びかけています。

（ウェブサイト） <http://undb.jp/committee/tool/action/>

○個人向けの生物多様性情報ポータルサイト「生物多様性.com」

個人の消費や飲食、教育や余暇などあらゆる行動に対して、生物多様性について考えるきっかけを提供し、生物多様性の主流化を目指すWEBサイトです。5つのアクションで絞り込み検索を行い、個人、団体、企業による生物多様性の保全及び持続可能な利用に向けたさまざまなプロダクト・サービス・取り組みを見ることができます。

（ウェブサイト） <http://tayousei.com/about/>

地球のいのち、つないでいこう

生物多様性とつながる
あなたの活動を応募しよう

活動情報
大募集
!

生物多様性アクション大賞 2015

レッツ・ギョー!! アクション
大漁のギョ応募
お待ちしていまーす♪

2015年6月5日(金) — 8月31日(月)

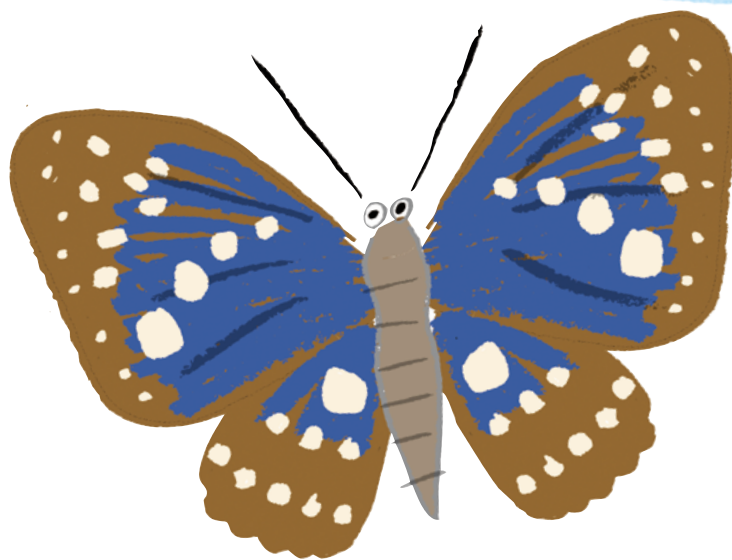
<http://5actions.jp/award/>



©2015 ANAN AND Tm.

さかなクン

生物多様性アクション大賞 2015
アンバサダー



たべよう
宮城県の日和キッチン

※写真は2014年度優秀賞受賞活動



ふれよう
沖縄県の石垣市立伊原間中学校



つたえよう
滋賀県の渡川いきものがたり作成支援委員会



まもろう
石川県のまるやま組



えらぼう
石川県の河北潟湖沼研究所

大賞

(優秀賞から1組)

30万円

優秀賞

(各部門1組)

5万円

復興支援賞 賞金20万円

入賞 ウェブサイトでの活動紹介

詳しくはウェブサイトをご覧ください



国連生物多様性の10年日本委員会
(UNDB-J)

応募方法

「生物多様性アクション大賞」ウェブサイトより応募してください。

<http://5actions.jp/award/>



応募部門

あなたの活動も生物多様性につながっているかもしれません。

5つのアクションからひとつを選んで応募してください。

部門	活動例	キーワード
たべよう部門	環境負荷が少なく、その地域、季節の生きものたちの恵みでもある、地元でとれた食材や、旬の食材を使って地域の食文化を掘り起こす活動。	自給自足、家庭菜園・市民農園、伝統食、地産地消、旬産旬消、食育、フードマイレージ etc
ふれよう部門	山、海、川、動・植物園などでの自然体験を通じて、自然の中で遊ぶことの楽しさや、地域の特色、生きものの生態や面白さを実感してもらう活動。	自然観察会、自然体験プログラム、自然学校、インタープリター育成、フィールドミュージアム、エコツーリズム etc
つたえよう部門	生きものたちのさまざまな色や形、行動を観察し、自然の素晴らしさや季節の移ろいを、写真や絵、文章などで記録・表現し、伝える活動。	伝承芸能、伝統行事、出版、ウェブ、アプリ、映像、写真、イベント、ゲーム、アート etc
まもろう部門	豊かな生態系を未来に残すため、森・里・川・海などを舞台に、自然や生きものの調査・保全・再生や、地域文化の保存などを行っている活動。	郷土芸能や伝統行事の保存、山村・里山・流域振興、自然保護活動、ナショナルトラスト etc
えらぼう部門	生物多様性のことをきちんと考えて生産・販売された商品やサービスを、その内容を開示し、消費者に提供する活動。または促進する活動。	フェアトレード、トレーサビリティ、グリーン購入、グリーンエコノミー、エコラベル etc

応募資格

日本国内に活動拠点がある団体・個人。

※政治活動や宗教の布教を目的として活動する団体や、公序良俗に反する活動は除く。

※詳しくはウェブサイトをご確認ください。

生物多様性アクション大賞とは…

「国連生物多様性の10年日本委員会」(UNDB-J)が推進している「MY行動宣言 5つのアクション」を参考に、5つのアクションに即した活動を表彰する「生物多様性アクション大賞」を設置します。

本賞は、全国各地で行われている5つのアクションに貢献する団体・個人の取組みを表彰し、積極的な広報を行うことにより、生物多様性の主流化を目指すものです。活動規模の大小を問わず、あらゆるセクターに「生物多様性の自分ごと化」を促し、「国連生物多様性の10年」の広報・教育・普及啓発(CEPA)活動の一つとして、またCOP10で採択された「愛知目標」達成の一助として実施します。本年は三回目の開催となります。具体的には、全国各地で行われている生物多様性の保全や持続可能な利用につながる活動を募り、「たべよう部門」、「ふれよう部門」、「つたえよう部門」、「まもろう部門」、「えらぼう部門」の5部門で「優秀賞」を選定し、さらに「優秀賞」受賞者によるプレゼンテーションを経て「大賞」を選定します。

過去の大賞 2013年度 アイキッズ～エコアイディアキッズびわ湖～
「滋賀・琵琶湖の伝統食作り」(滋賀県)
2014年度 まるやま組「アエノコト」(石川県)

選考スケジュール



最新情報はこちら

<http://5actions.jp/award/>

<https://www.facebook.com/5actions.award>

お問い合わせ先：生物多様性アクション大賞事務局

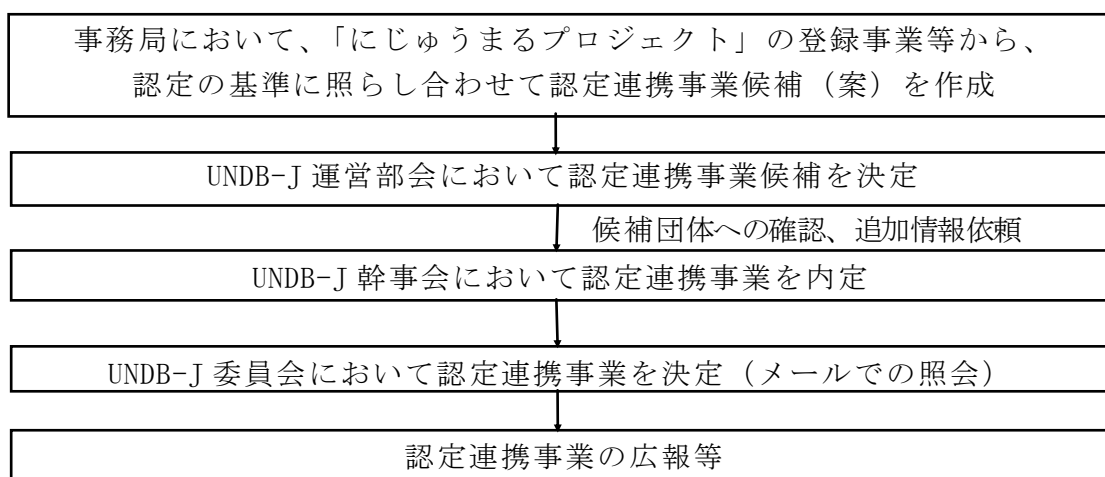
TEL : 03-5256-6770 E-mail : award@cepajapan.org

国連生物多様性の 10 年日本委員会 (UNDB-J)
平成 27 年度連携事業の認定スケジュールについて

1. 概要

UNDB-J 認定連携事業は、各セクターの参加と連携を促進するため、「にじゅうまるプロジェクト」等及び UNDB-J 構成団体(関係省庁含む)の関連する事業の中から、「多様な主体の連携」、「取組の重要性」、「取組の広報の効果」などの観点(別表参考)から総合的に判断し、UNDB-J が推奨する事業を認定する。

2. 認定の基本プロセス



3. 2015 年度の認定スケジュール（見込み）

2015 年度認定連携事業については、昨年度同様、2 回にわたって UNDB-J 連携事業の認定を行う予定。一回の認定数は、最大 10 件程度を想定中。

スケジュール案

<第 7 弾>

2015 年

- 7 月 UNDB-J 構成団体に対し、第 7 弾認定候補事業の推薦依頼（1 ヶ月程度）
- 8 月 運営部会等の助言を経て、第 7 弾認定連携事業候補を決定
- 9 月 上旬 委員会において決定（メールでの照会）
- 下旬 第 7 弾認定事業の発表（プレスリリース）

<第 8 弾>

- 12 月 UNDB-J 構成団体に対し、第 8 弾認定候補事業の推薦依頼（1 ヶ月程度）

2016 年

- 1 月 運営部会等の助言を経て、第 8 弾認定連携事業候補を決定
- 2 月 幹事会において内定、委員会において決定（メールでの照会）
- 3 月 第 8 弾認定連携事業の発表（プレスリリース）

認定の基準

多様な主体の連携	取組の重要性	取組の広報の効果
以下のいずれかに該当する	以下のいずれかに該当する	以下のいずれかに該当する
①複数のセクター（国、地方自治体、事業者、民間団体、国民など）が連携・協働しているもの	①生物多様性の保全及び持続可能な利用に対して具体的な効果が期待されるもの	①参加者や支援者の増加により事業効果のさらなる向上が期待されるもの
②地域における連携・協働を促進する効果が期待されるもの（地域における活動計画の策定、活動拠点の整備など）	②関連する活動の推進を支援する効果が期待されるもの（他の活動への支援や表彰など）	②他の地域や団体でも同様の活動が行われるようになることが期待されるもの
③セクターにおける連携・協働を促進する効果が期待されるもの（業界団体における行動指針の策定、セクターにおける共同事業など）	③事業を継続実施できる仕組みが整備されているもの（事業者の事業活動に組み込まれている、協議会を設置しているなど）	③活動に先進性があり、新たな取組を誘発する波及効果が期待されるもの
④その他、多様な主体の連携・協働を促進する効果が期待されるもの	④その他、取組の重要性が認められるもの	④その他、広報の効果が期待されるもの

【生物多様性.com】
http://tayousei.com/

・各委員報告の活動、認定連携事業、生物多
様性の本箱、生物多様性アクション大賞受賞
活動、キーワード解説等から記事作成

・広告枠：期間保証型バナー広告、(月額2～3
万円程の広告掲載枠を設定/サポーター割引
等)

・記事更新情報を、Iki・Tomoパートナーズ
(Facebook)で配信

・2015年2月20日
UNDB-J幹事会より、関係者公開

・2015年5月22日
国際生物多様性の日に、
一般公開・リリース



ホームページに設定する

○ カテゴリーからさがす

- ▶ 食品
- ▶ 飲食店
- ▶ ファッション
- ▶ 日用品
- ▶ 書籍
- ▶ 旅行/トラベル
- ▶ 教育
- ▶ 支援系商品
- ▶ 環境ラベル/認証制度

○ セミナー/イベント

- ▶ 北海道
- ▶ 中部
- ▶ 中国・四国

○ トピックス

- ▶ 取組み

○ コラム

- ▶ 解説

■ 絞り込み検索

■ 認知ターゲット

- ☐ 自標1
- ☐ 自標2
- ☐ 自標3
- ☐ 自標4
- ☐ 自標5
- ☐ 自標6
- ☐ 自標7
- ☐ 自標8
- ☐ 自標9
- ☐ 自標10
- ☐ 自標11
- ☐ 自標12
- ☐ 自標13
- ☐ 自標14
- ☐ 自標15
- ☐ 自標16
- ☐ 自標17
- ☐ 自標18
- ☐ 自標19
- ☐ 自標20

■ 5つのアクション

- ☐ たべよう
- ☐ ふれよう
- ☐ つたえよう
- ☐ まちろう
- ☐ えらぼう

絞り込み検索



▼運営組織



▼管理団体



- ▶ このサイトについて
- ▶ お問い合わせ
- ▶ 個人情報保護方針
- ▶ 協賛・支援について
- ▶ 広告掲載について

Copyright
©2015 UNDB-J/NACS-J
All rights reserved

カテゴリーからさがす > セミナー/イベント > 北海道 > 支援系商品 > 環境ラベル/認証制度 > 米・穀類 > 食品

2014年10月16日

特Aランキングを毎年受賞。生きものを育む農法で栽培される佐渡のお米「朱鷺（トキ）と暮らす郷（サト）」



佐渡産コシヒカリ「朱鷺と暮らす郷」

佐渡コシヒカリは、日本穀物検定協会の食味ランキングで毎年「特A」評価を得るほどの名産品。しっかりとした食感と噛みしめるほど口の中に広がる甘みが自慢のお米ですが、その佐渡産のコシヒカリの中でも「生きものを育む農法」で栽培され、豊かな生態系を創造することに貢献するお米があります。それが「朱鷺と暮らす郷」です。

「生きものを育む農法」とは、農薬や化学肥料を削減するだけでなく、水田とその周囲に生きもののための生息環境を作り出す農法です。具体的には、水路などに深みや魚道水路、ピオトープなどを設置したり、11月から2月まで水田を湿地状態として管理し、年間を通じて魚・昆虫などの動物や水辺の植物をはくくみます。それらを餌にするサギやトキなどの鳥類にも暮らしやすい環境となり、豊かな生態系をつくりだすことができるのです。

・「朱鷺と暮らす郷」米が購入できる全国のお米屋さんはこちらから

<http://www.toki-mai.jp/>



「朱鷺と暮らす郷」認証マーク。売上の一部は「佐渡市トキ保護専金」に寄付される。

▶新潟県特別栽培産物認証制度とは、新潟県が化学農薬・化学肥料を地域の基準から5割削減して栽培した農産物の栽培方法等を確認し認証する「新潟県の安全・安心ブランド」です。生産者の栽培履歴は県特別栽培農産物認証制度で確認できます。

▶「減農薬栽培」とは、「減農薬減化学肥料」の略です。たとえば「8割減農薬栽培」は、農薬と化学肥料をそれぞれ8割削減した栽培方法を意味します。



トキ 新潟 米 認証米

広告のご案内

概要

「生物多様性.com」は、個人のあらゆる行動に対して、生物多様性について考えるきっかけを提供することで、生物多様性の主流化を目指したサイトです。

生物多様性に関する情報や、個人、団体、企業による生物多様性の保全及び持続可能な利用に向け

たさまざまなプロダクト・サービス・取り組みを紹介しています。自然好きな人、安全・健康への意識が高い人、社会貢献意識の高い人といった読者層へ、生物多様性保全につながる商品やサービスに関する効果的な広告媒体として、また、CSR活動や社会貢献活動の広報媒体としてご活用ください。

媒体名	「生物多様性.com」	http://tayousei.com/
創刊	2015年5月22日	
購読料	無料	
更新	毎月5～10の記事コンテンツを追加更新	
アクセス数	毎月10万ページビュー／初年度（目標）	
	スマートフォン対応	

広告位置および料金

PC版



スマートフォン版



	サイズ (PC版)	料金 (税別)
①右カラムバナー広告	350×240px	30000円／月
②右カラム小サイズバナー広告	350×130px	20000円／月

※1 長期掲載お申し込みの場合、下記の通り割引させていただきます。
●6～11か月＝10%割引
●12か月以上＝20%割引
(掲載期間分は一括払いとなります。納入いただいた掲載料は原則として返還できません。)

※2 UNDB-Jサポーター割引、オープニング割引があります。詳しくはお問い合わせ下さい。

付則

生物多様性保全と著しく合い入れない性格の内容と事務局が判断した広告掲載は、お受けできない場合がございます。あらかじめご了承くださいませ。

問い合わせ先

UNDB-J / Iki・Tomo推進事務局
公益財団法人 日本自然保護協会 担当：編集室
〒104-0033 東京都中央区新川1-16-10 ミトヨビル2F
Eメール：undbj@nacsj.or.jp
TEL:03-3553-4106 FAX:03-3553-0139

UNDB-Jオフィシャルサイト・Facebook 生物多様性.com 連携による拡散



● Facebook いいね！

3月末 1500
↓
6月頭 1660

リーチ

5月20日 4,226
5月21日 9,866
5月22日 7,480
計 21,572



※ 特に個人向け商品、
サービス、参加募集等
＜左下メニュー＞
情報提供フォーム
または、情報提供
エクセルフォーム
にて記事提供情報
お願いいたします。

undbj@nacsj.or.jp
Iki・Tomo推進事務局
日本自然保護協会

